

# 退院後の生活を見据えた看護に 繋げる為に

～集団訓練の取組みの効果～

周南リハビリテーション病院

# I 目的

自宅に退院した患者の生活状況の確認

- ・デイサービスに馴染めない
- ・ADLが自立して退院したのにオムツ使用
- ・引きこもりになった



入院中、

他者との交流がなくベッド上の生活が主に

集団での取り組みが有効  
なのではないか？

## Ⅱ 研究方法

### 期間

平成29年5月1日～平成29年7月31日

### 対象

- ①退院先が自宅
- ②FIM認知項目が35点未満の患者13名

### 方法

- 1) 前年度の自宅退院者38名の退院時と退院1週間・1か月後のFIMのデータ集計、退院後の生活状況調査票の確認し、自宅での生活で認知面に低下が無いかが調査

## Ⅱ 研究方法

### 2) 起立訓練と体操の実施

- ・起立訓練メニューに沿って、毎日午前・午後の1日2回実施
- ・自由参加とし、見学・体操だけのかたちでも参加してもらうようにした

### 3) 対象患者に起立訓練実施後の聞き取り調査

### 4) 対象患者の退院時と退院後の1週間のFIMデータ集計、退院後1週間・1ヶ月の自宅での生活について調べる

# Ⅲ 結果

表1 FIM認知項目の推移(点)

	退院時	退院後1週間	退院後1ヶ月
A氏	29	29	30
B氏	28	28	30
C氏	35	35	35
D氏	23	23	23
E氏	33	33	33
F氏	30	30	30
G氏	26	26	26

前年度自宅退院者38名、退院後も低下なし

# Ⅲ 結果

## ・訓練後の聞き取り調査

「この訓練に来るようになって友人ができた」

「一人でやるよりも、頑張れるし楽しい」

「自分より不自由な人が頑張っているのを見て、やる気が出たし、実力以上の力を出せた」

**集団での訓練**



**他者との交流が行える**



**共感し合える仲間の存在が支えとなる**



**入院生活が意欲的に過ごせることが出来る**

## IV 考察

対象所以外の患者の参加患者の参加

⇒ 活気ある場の提供、交流を促せた

患者の退院後の生活を見据えた関わりを入院中から取り入れることで

⇒ スタッフが退院後の生活に着目して  
看護するよう意識が高まった

## 集団訓練の取り組みを行う事により

- ①患者同士の交流が意欲的な環境を作り出し、ADLの維持と退院後の社会資源利用と引きこもり予防に繋げることが出来た
- ②入院時より退院後の生活を考える関わる回復期リハビリテーション看護師の役割の大切さを再認識した